資料編

１	促進計画策定の背景	・・・・・・	2
２	震度分布図（日向灘北部地震）	・・・・・・	4
３	震度分布図（日向灘南部地震）	・・・・・・	5
４	震度分布図（えびの－小林地震）	・・・・・・	6
５	震度分布図（東南海・南海地震）	・・・・・・	7
４	震度分布図（南海トラフ地震）	・・・・・・	8
６	震度分布図（宮崎県独自)）	・・・・・・	9
７	表層地盤のゆれやすさ（宮崎県）	・・・・・・	10
８	液状化危険度分布図（日向灘北部地震）	・・・・・・	11
９	液状化危険度分布図（日向灘南部地震）	・・・・・・	12
１０	液状化危険度分布図（えびの－小林地震）	・・・・・・	13
１１	液状化危険度分布図（南海トラフ地震）	・・・・・・	14
１２	液状化危険度分布図（宮崎県独自）	・・・・・・	15
１３	緊急輸送道路ネットワーク計画図（宮崎県）	・・・・・・	16

1　促進計画策定の背景

平成７年１月の阪神・淡路大震災では、地震により多数の尊い命が奪われ、このうち約８割は住宅・建築物の倒壊等によるものであった。この教訓を踏まえて、同年、建築物の耐震改修の促進に関する法律が制定され、同法に基づき建築物の耐震改修促進への取組みを行ってきた。

しかし近年、平成１６年１０月の新潟県中越地震、また平成１７年３月の福岡県西方沖地震など大規模地震が頻発し、多大な被害をもたらしており、大地震はいつどこで発生してもおかしくない状況にあるという認識が広がっている。（表１－１）

また、東海地震、東南海・南海地震等の大規模地震については発生の切迫性が指摘され、ひとたび地震が発生すると被害は甚大なものと想定されている。

建築物の耐震化が進まない状況に加え、このような切迫性の高い地震については発生までの時間が限られ、効果的かつ効率的な建築物の耐震改修等を実施する必要があることから平成１８年１月法が改正され、建築物の耐震化について強力に促進していくこととされた。

表 1-1　地震の概要と被害の概要

項目	東日本大震災	福岡県西方沖地震	新潟県中越地震	阪神・淡路大震災
発災日時	平成 23 年 3 月 11 日(金) 午後 2 時 46 分	平成 17 年 3 月 20 日(日) 午前 10 時 53 分	平成 16 年 10 月 23 日(土) 午後 5 時 56 分	平成 7 年 1 月 17 日(火) 午前 5 時 46 分
地震規模	マグニチュード 9.0	マグニチュード 7.0	マグニチュード 6.8	マグニチュード 7.3
最大震度	7 (栗原市)	6 弱 (福岡市、前原市、みやき町)	7 (川口町)	7 (神戸市、北淡路町他一部)
被害の概要	死　　者：19,335 人 行方不明者：2,600 人 重軽傷者：6,219 人 住家被害：1,178,223 棟 (平成 27 年 9 月 9 日時点)	死　　者：1 人 重軽傷者：1,204 人 住家被害：9,837 棟	死　　者：68 人 重軽傷者：4,873 人 住家被害：122,676 棟	死　　者：6,434 人 行方不明者：3 人 重軽傷者：43,792 人 住家被害：639,686 棟

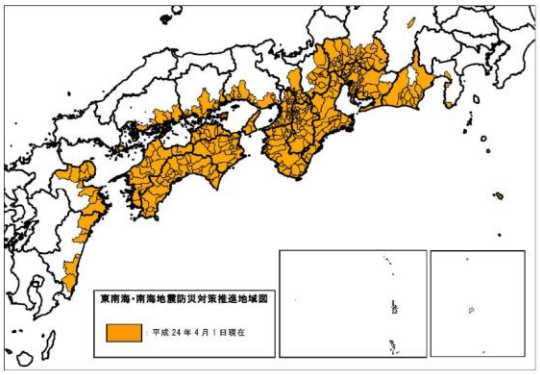
※住宅被害は：全壊、半壊、一部破損を合わせた数
（出典：消防庁）

＜切迫性が指摘されている大規模地震＞

主な大規模地震の発生予測	
東海地震	（M8.0）今後 30 年以内に 88%
東南海・南海地震	東南海（M8.6）今後 30 年以内に 70%程度
	南海　（M8.6）今後 30 年以内に 60%程度

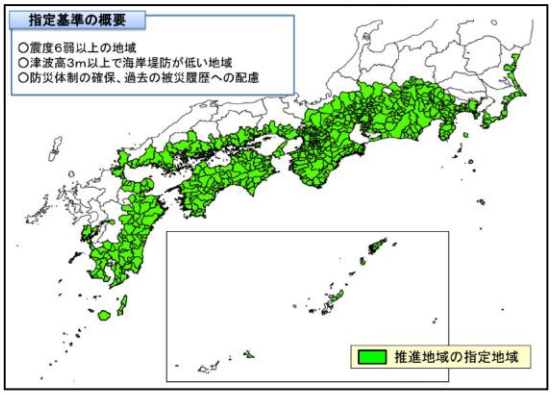
出典:地震調査研究推進本部

＜東南海・南海地震防災対策推進地域＞

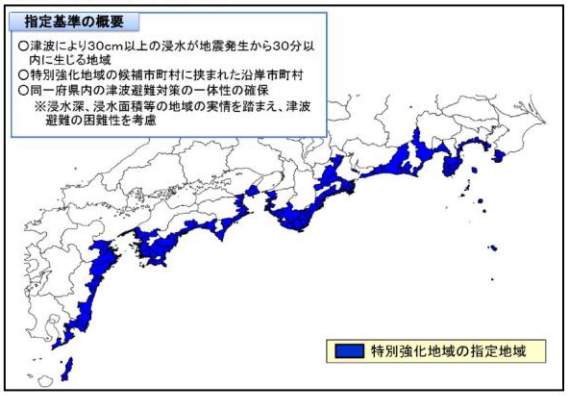


宮崎市、延岡市、日南市、日向市、新富町、門川町の４市２町が東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第３条の規定に基づき、東南海・南海地震防災対策推進地域としての指定を受けている。
（平成 24 年 4 月 1 日時点）

＜南海トラフ地震防災対策推進地域＞



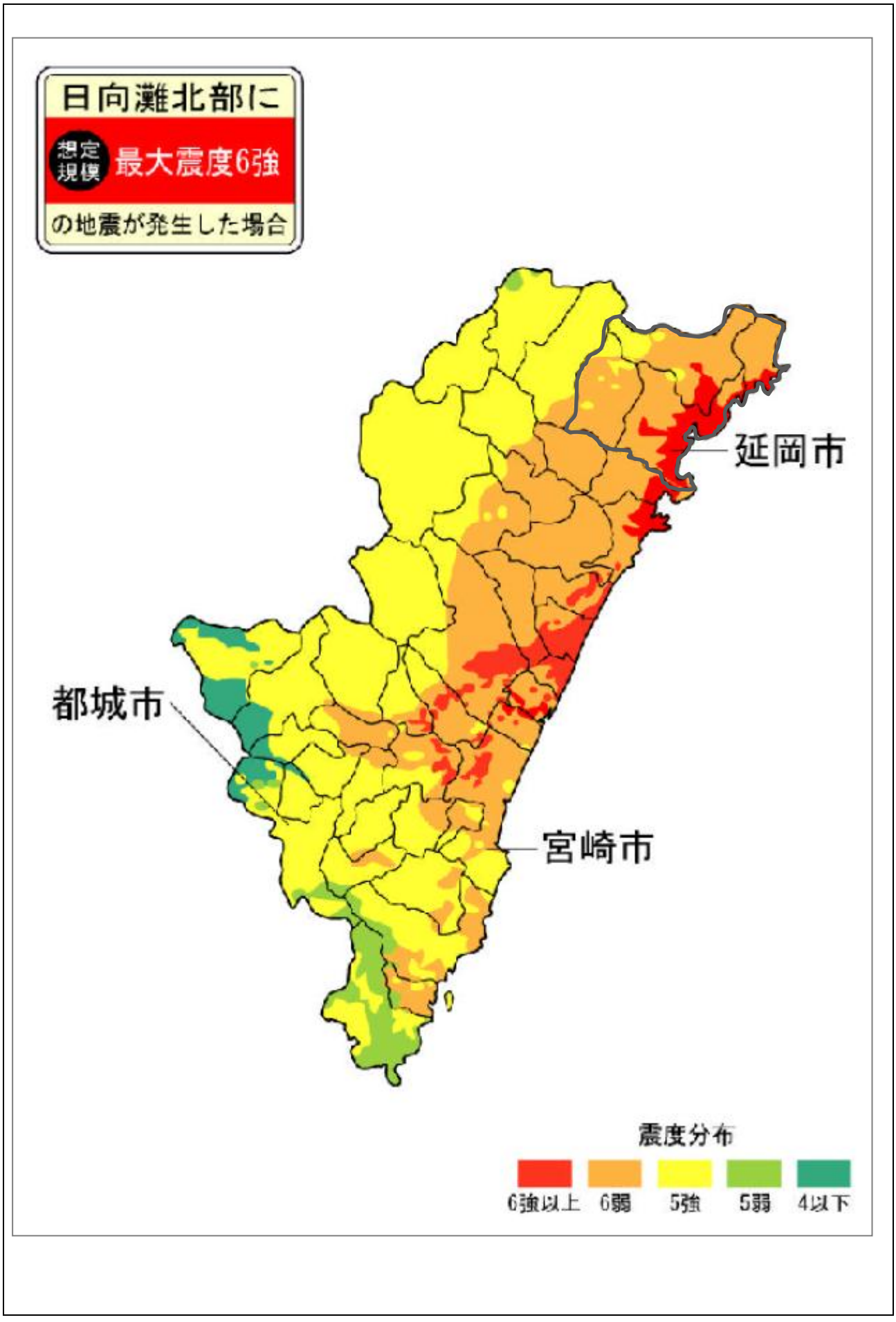
宮崎県の全域が「南海トラフ地震防災対策推進地域」として指定を受けている。
（平成 26 年 3 月 28 日現在）



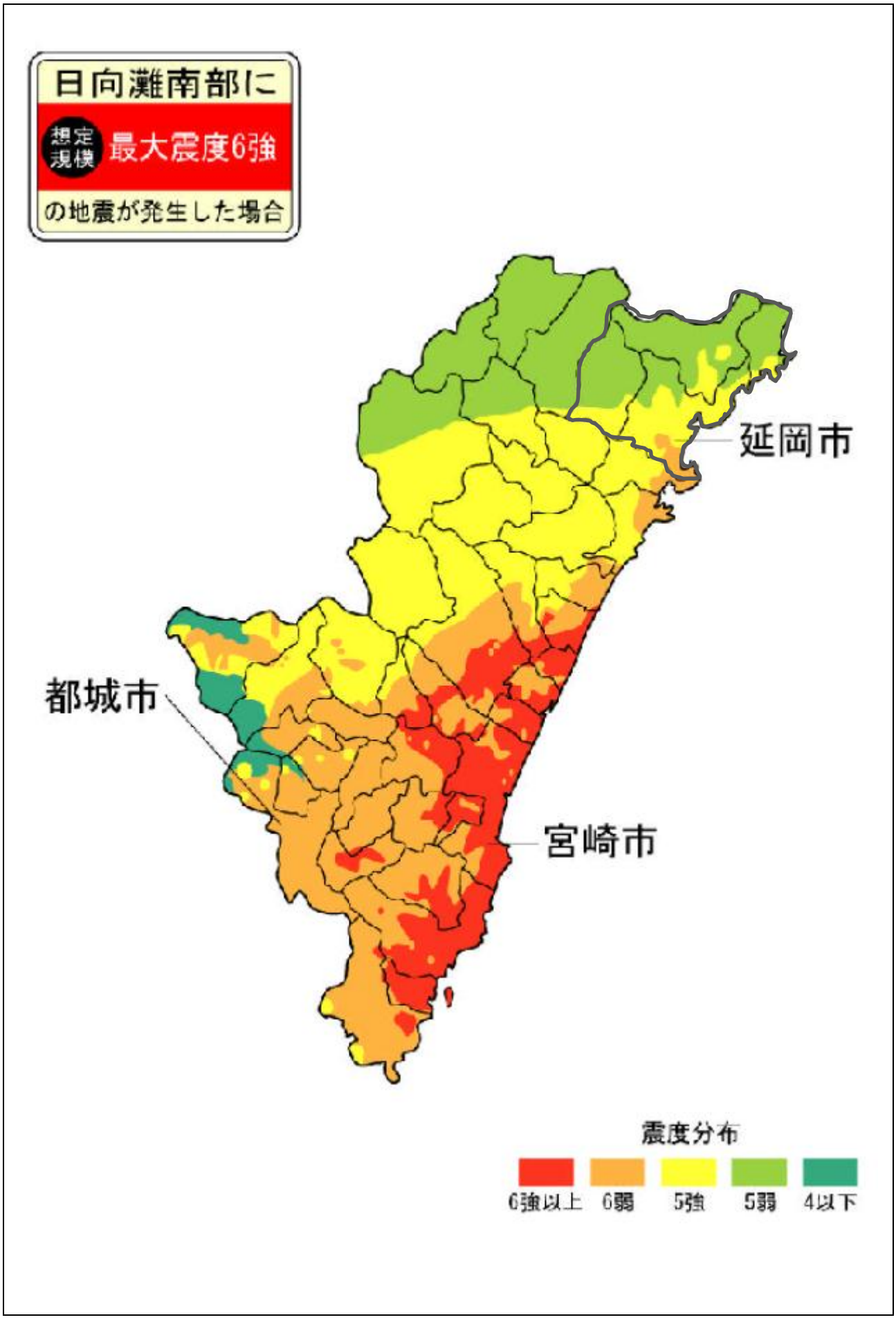
宮崎市、延岡市、日南市、日向市、串間市、高鍋町、新富町、川南町、都農町、門川町が「南海トラフ地震防災対策特別推進地域」として指定を受けている。
（平成 26 年 3 月 28 日現在）

出典：内閣府防災担当ホームページ

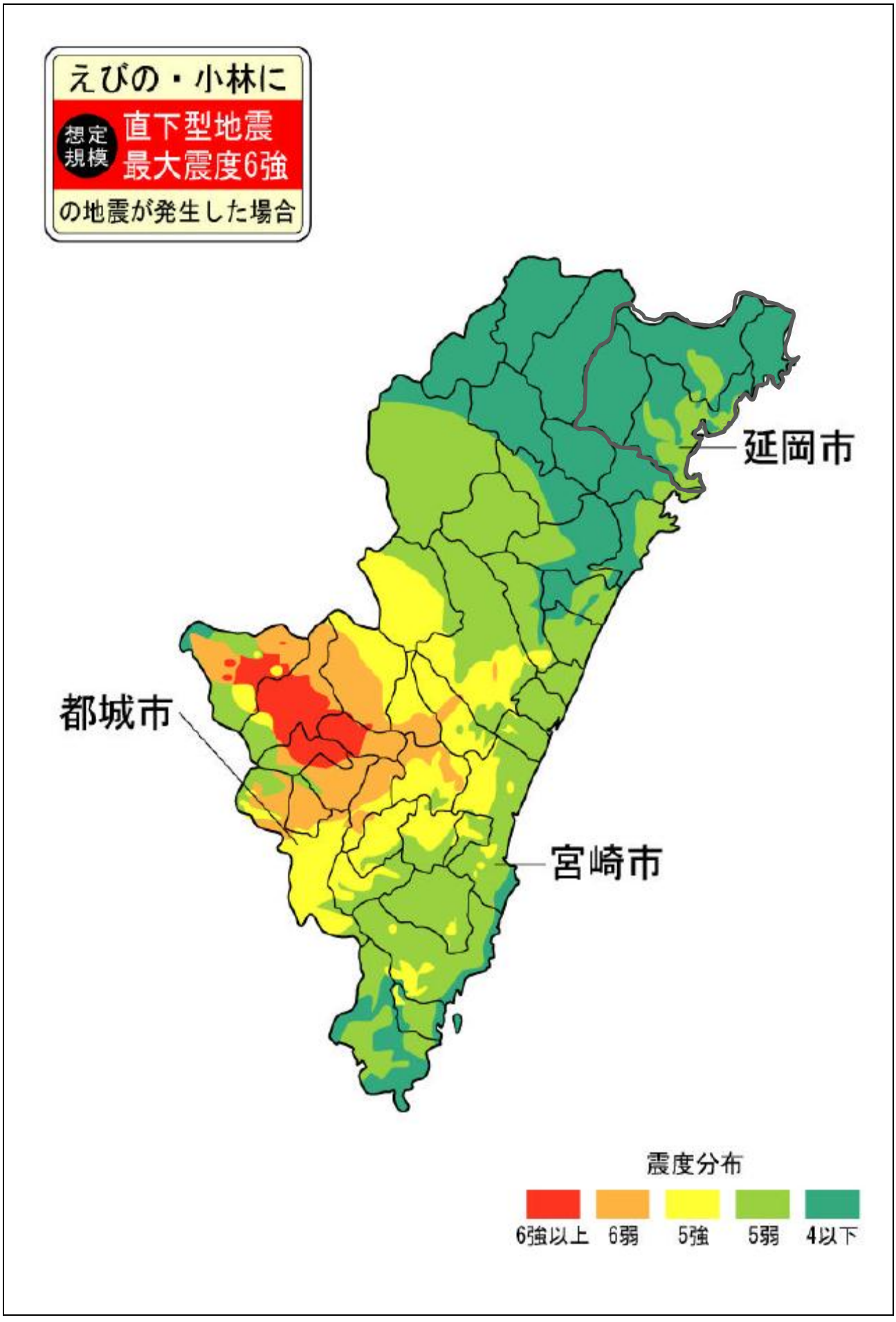
2　震度分布図（日向灘北部地震）　図－１



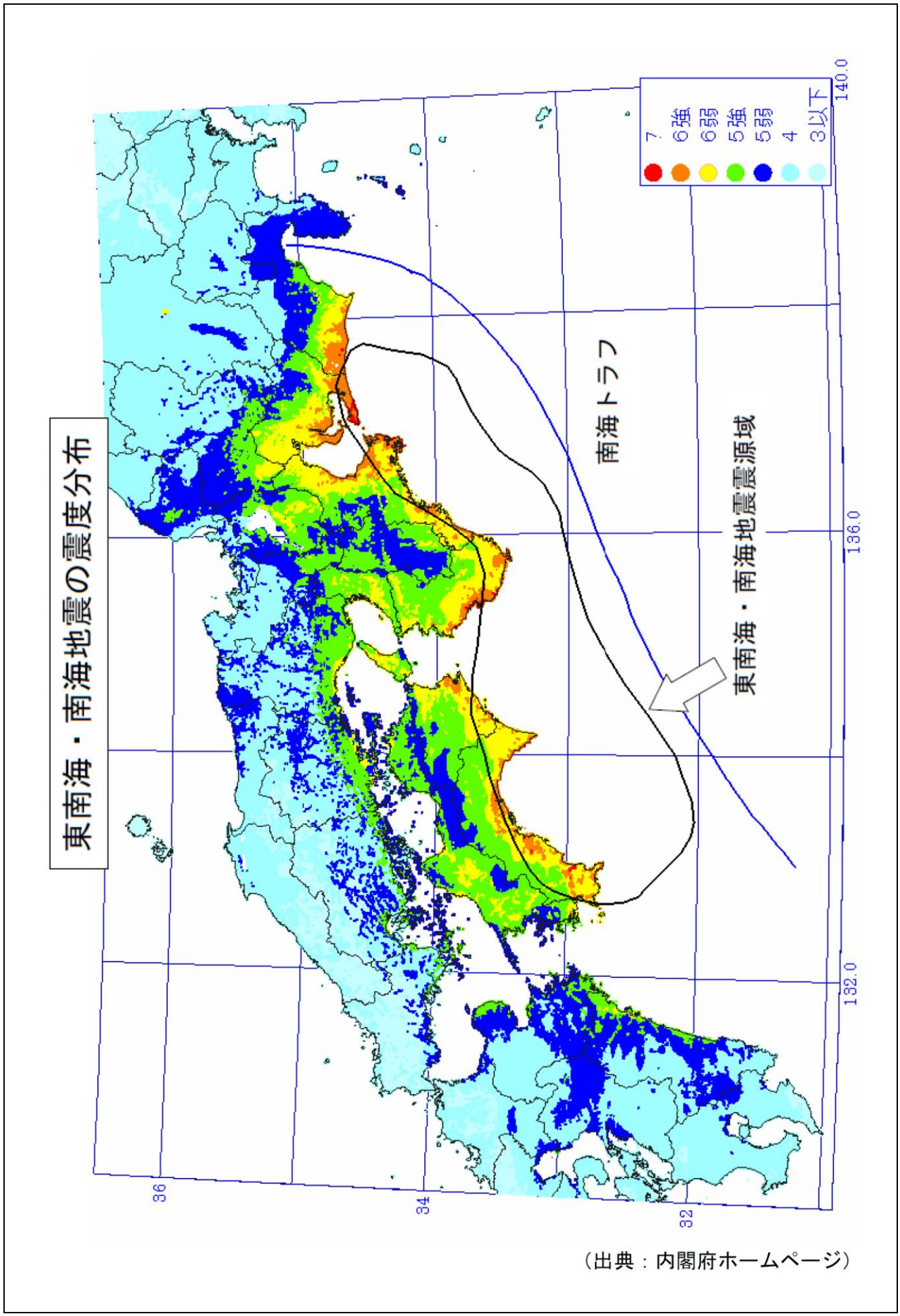
３　震度分布図（日向灘南部地震）　図－２



4　震度分布図（えびの－小林地震）　図－３

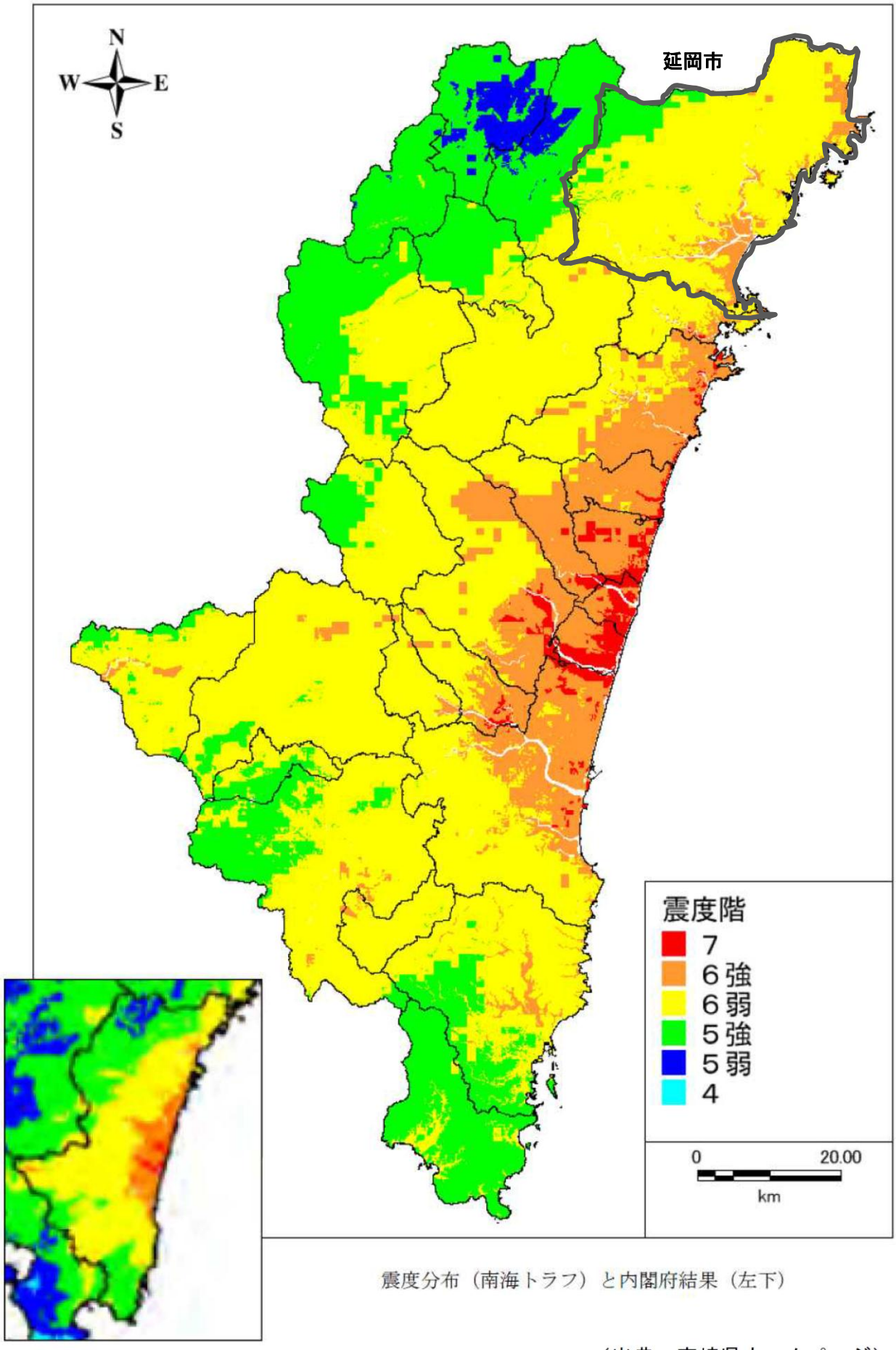


５　震度分布図（東南海・南海地震）



（出典：内閣府ホームページ）

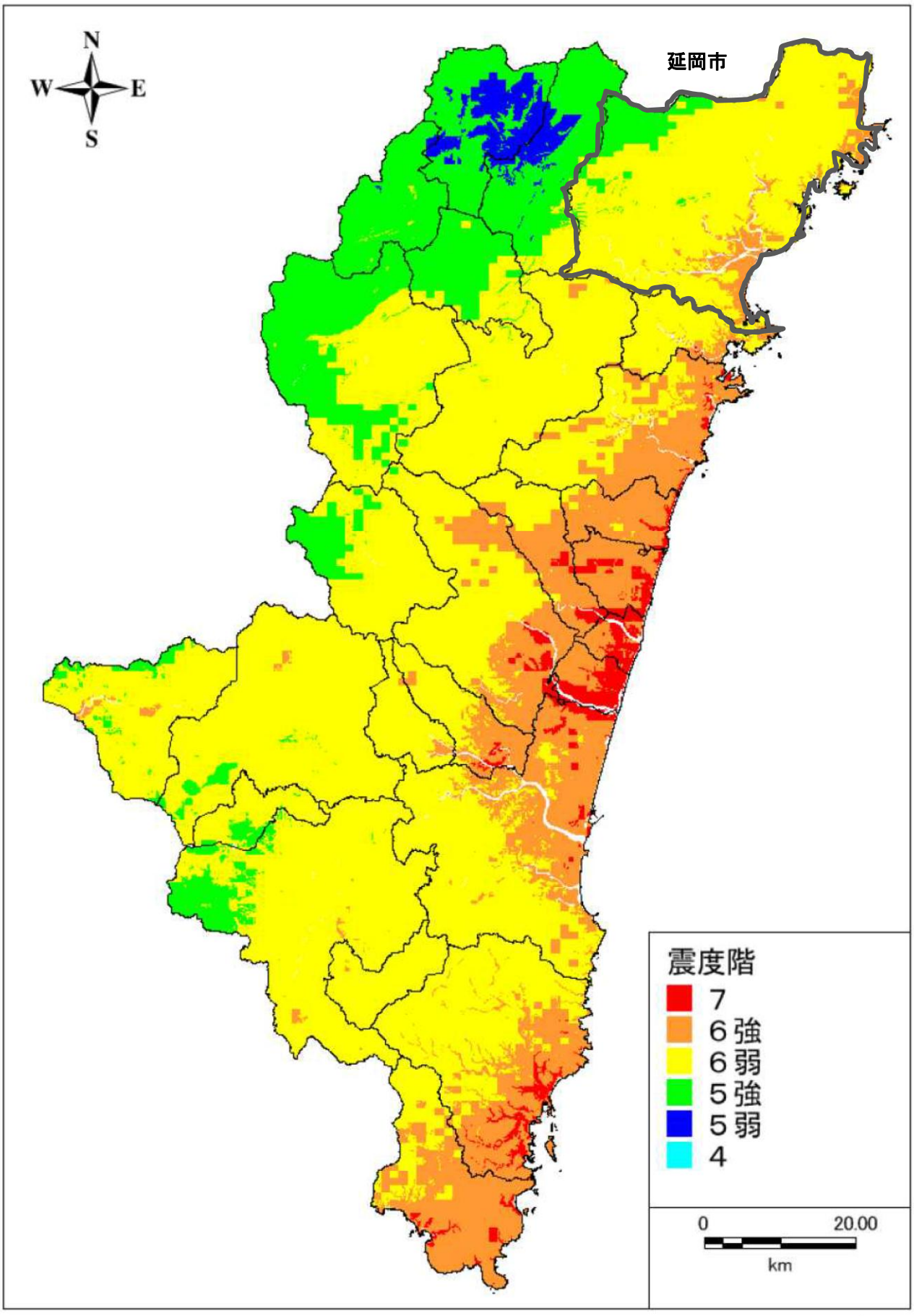
６　震度分布図（南海トラフ地震）



震度分布（南海トラフ）と内閣府結果（左下）

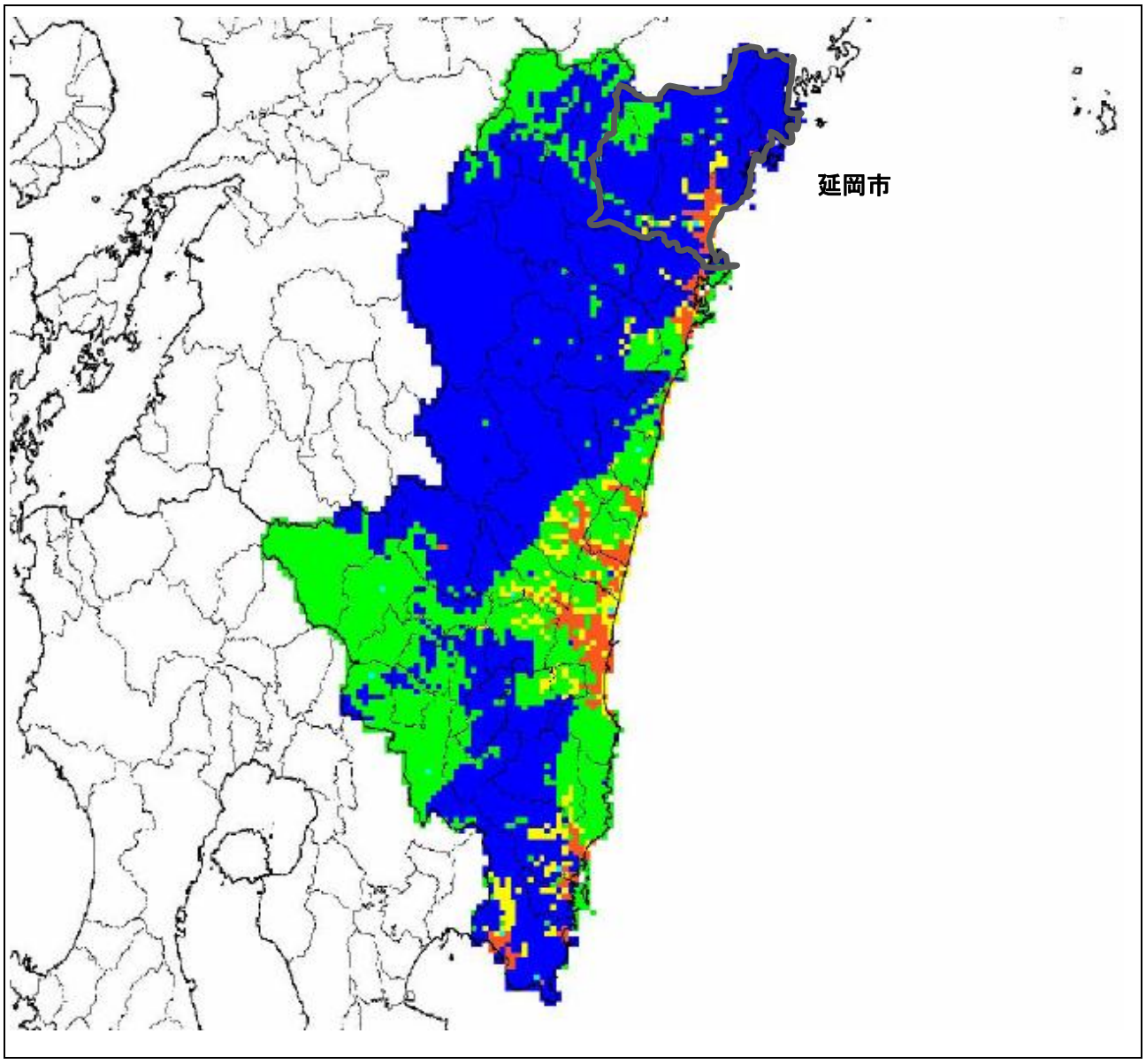
（出典：宮崎県ホームページ）

7　震度分布図（宮崎県独自）



（出典：宮崎県ホームページ）

8　表層地盤のゆれやすさ①（宮崎県）

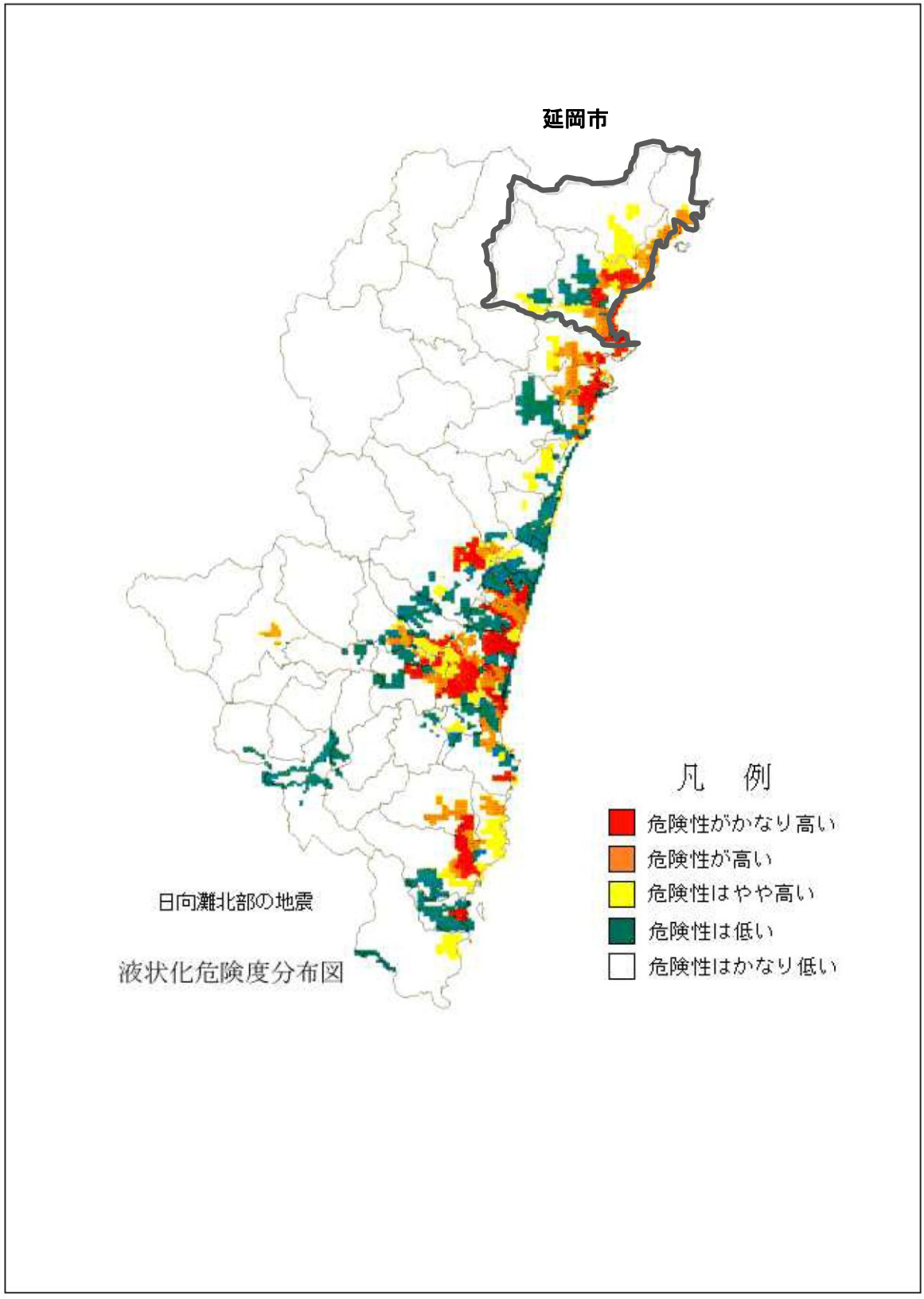


計測震度増分	色	
1.0～1.65		ゆれやすい
0.8～10		
0.6～0.8		
0.4～0.6		
0.2～0.4		
0.0～0.2		
−0.95～0.0		ゆれにくい

（出典：内閣府防災担当ホームページ）

①表層地盤のゆれやすさ　：　地表でのゆれの強さは、表層地盤のやわらかさの程度により決まるものであり、この図面は、各地の平均よりもやわらかい地盤に対して、地表でのゆれが深部（工学的基礎）でのゆれに対して大きくなる割合（計測震度増分）を示したもの。

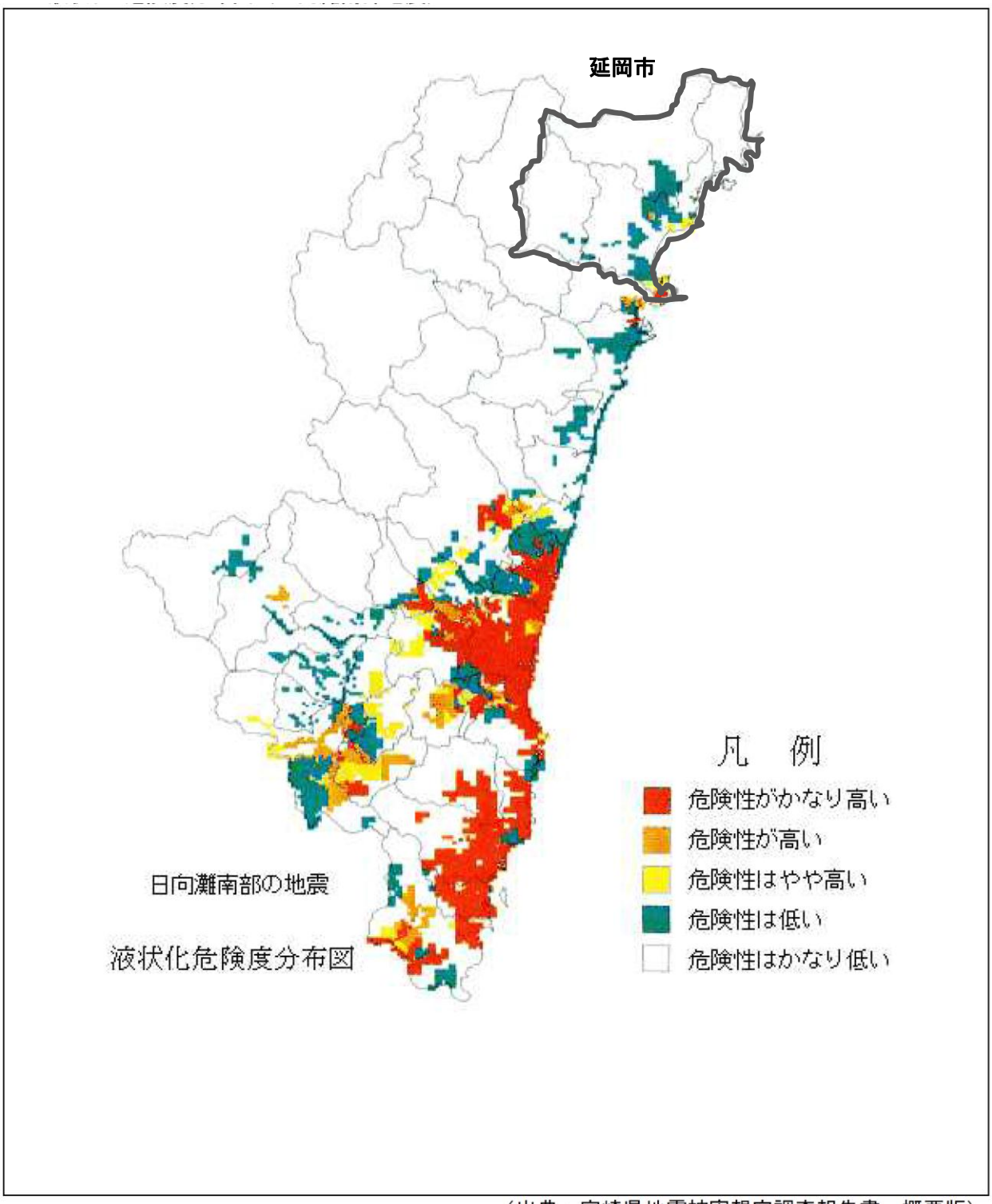
９　液状化②危険度分布図（日向灘北部地震）



（出典：宮崎県地震被害想定調査報告書　概要版）

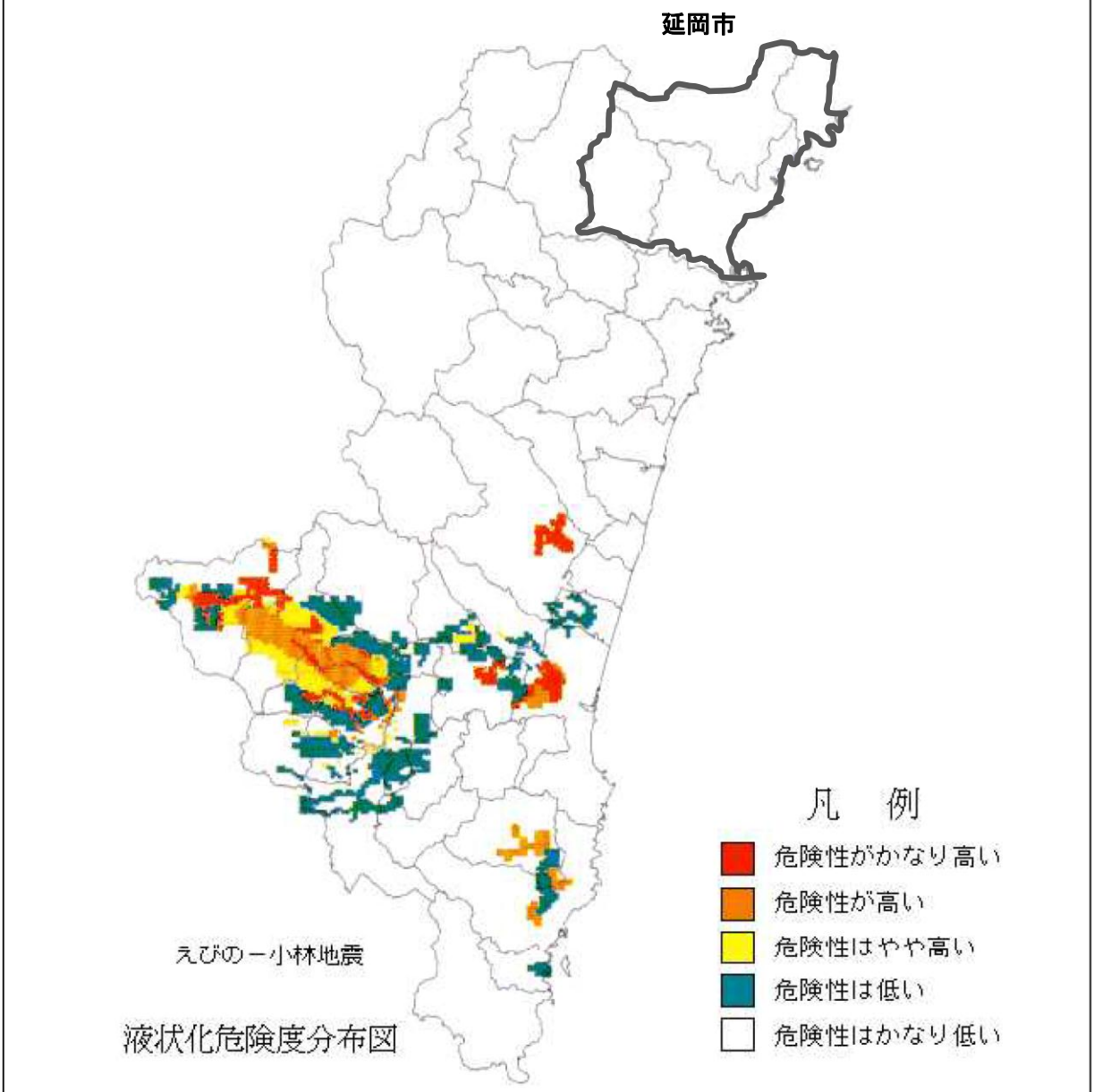
②液状化　：　地震の際に地下水位の高い砂地盤が、振動により液体状になる現象。これにより比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中の比重の軽い構造物（下水管等）が浮き上がったりする。

１０　液状化危険度分布図（日向灘南部地震）



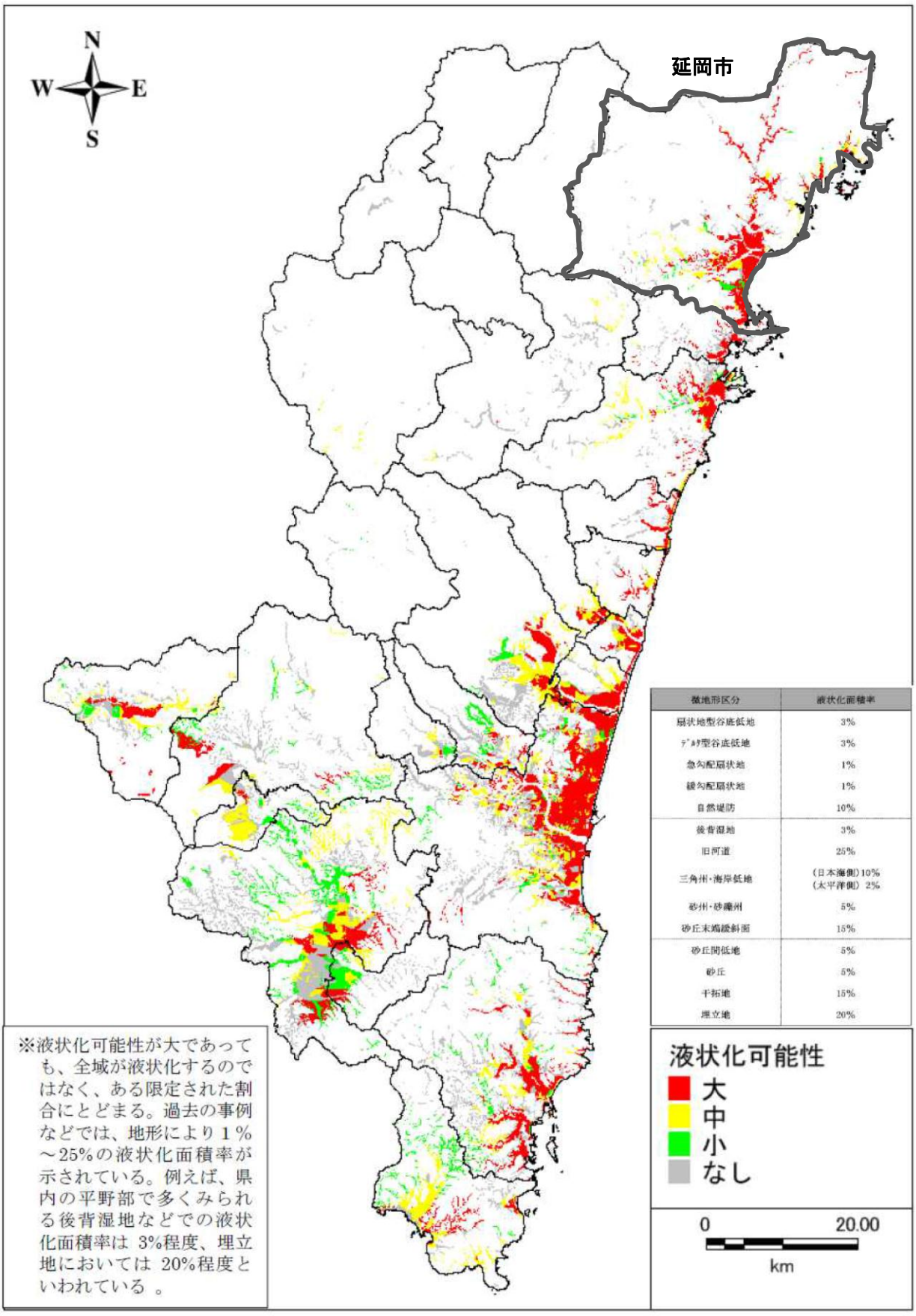
（出典：宮崎県地震被害想定調査報告書　概要版）

１１　液状化危険度分布図（えびのー小林地震）



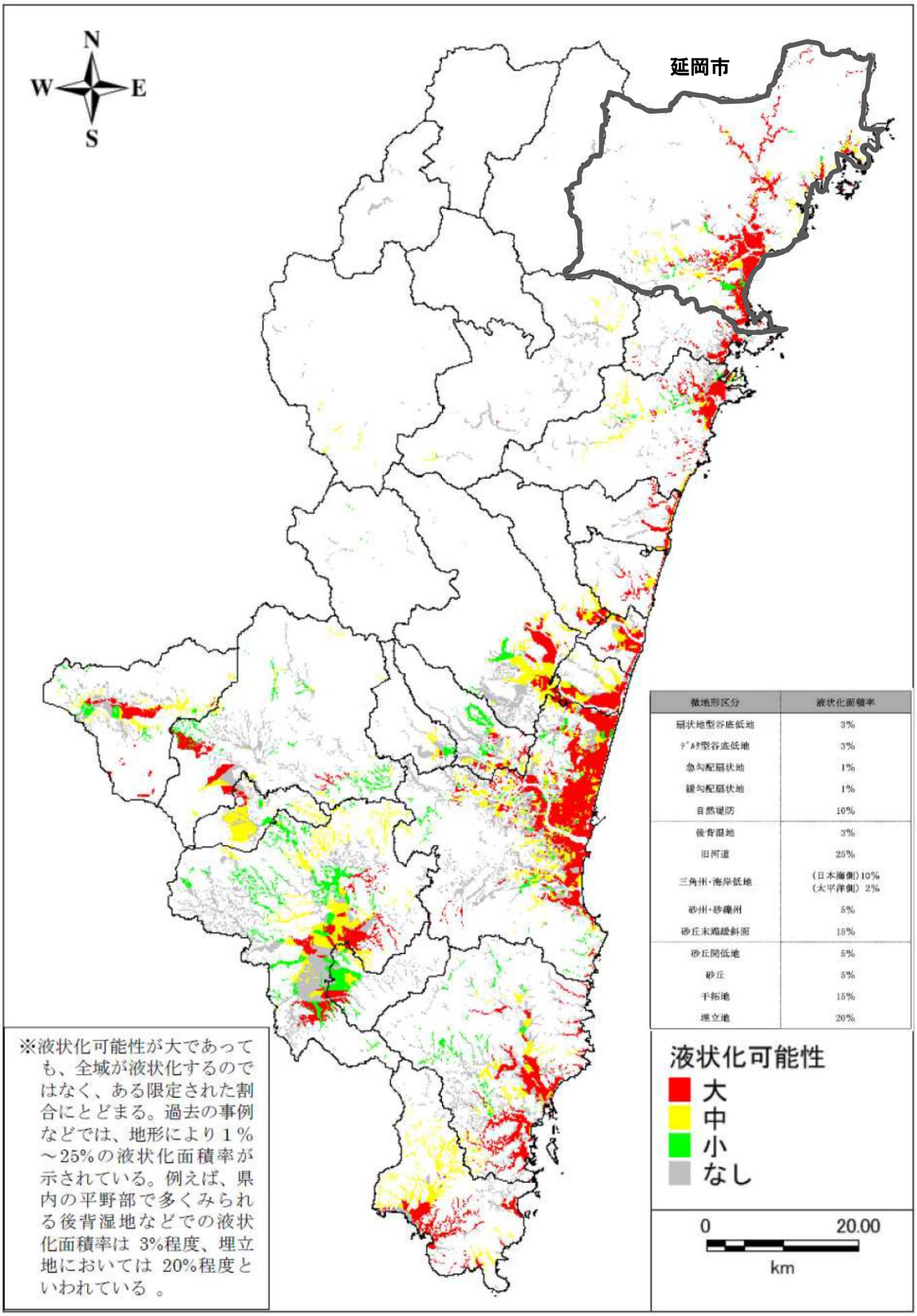
（出典：宮崎県地震被害想定調査報告書　概要版）

１２　液状化危険度分布図（南海トラフ地震）



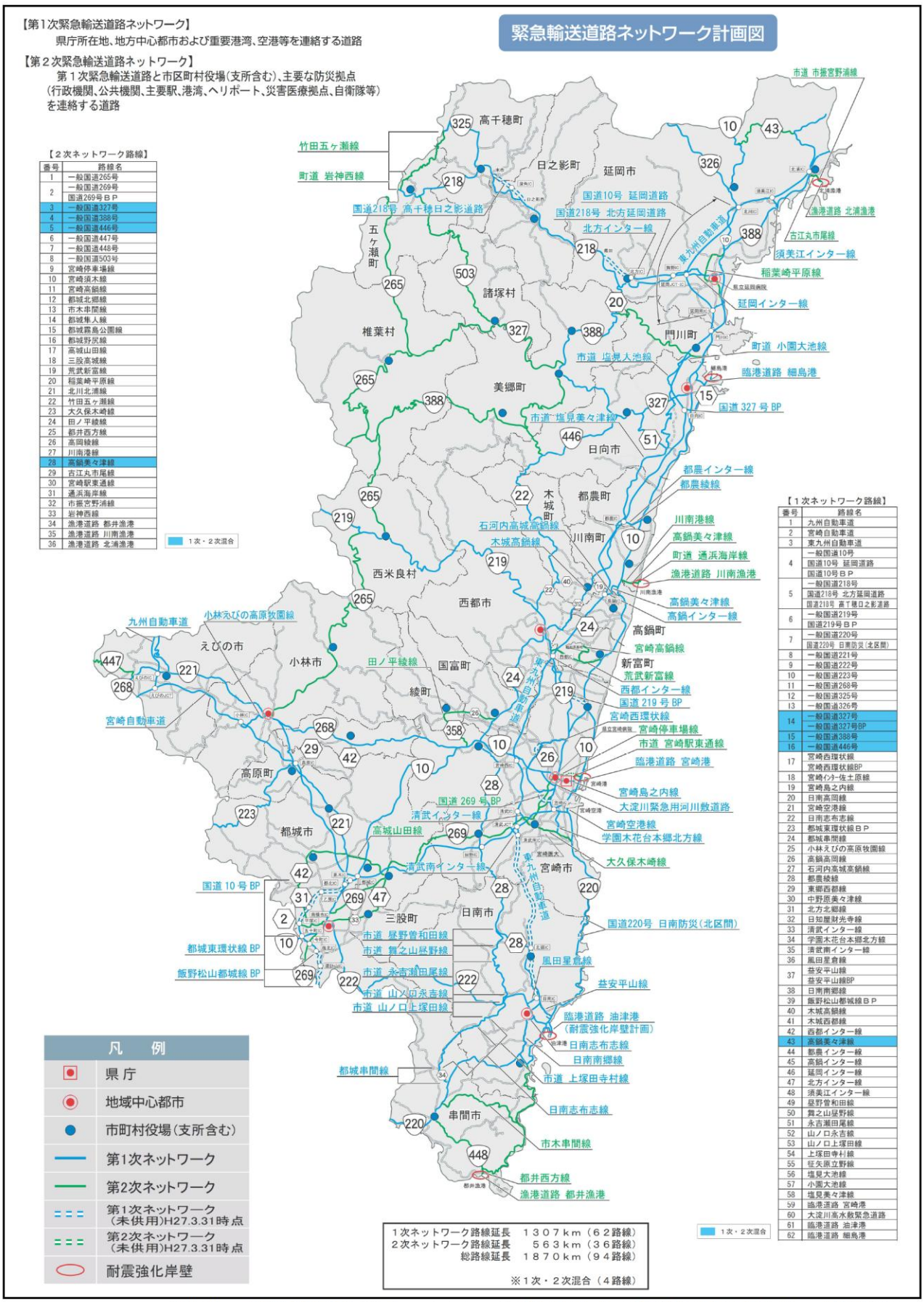
（出典：宮崎県ホームページ）

１３　液状化危険度分布図（宮崎県独自）



（出典：宮崎県ホームページ）

１４　緊急輸送道路ネットワーク計画図（宮崎県指定）



（出典：緊急輸送道路ネットワーク計画図（平成24年11月21日）、宮崎県）